

こもろ 市議会だより

No. **167**
平成28.10.26



9月定例会

12月定例会は、11月29日(火)開会の予定です



運動遊びの成果はあつたかな
保育園の運動会から



平成27年度
決算を認定

主な内容

- 9月定例会特集 2～5ページ
- 常任委員会報告 6～7ページ
- 一般質問について 8ページ
- 代表質問(6名) 8～12ページ
- 個人質問(11名) 13～18ページ
- 議員紹介コーナー 18ページ
- 委員会報告 19～20ページ
- 傍聴席・編集後記 20ページ

平成27年度一般会計・特別会計の決算を認定

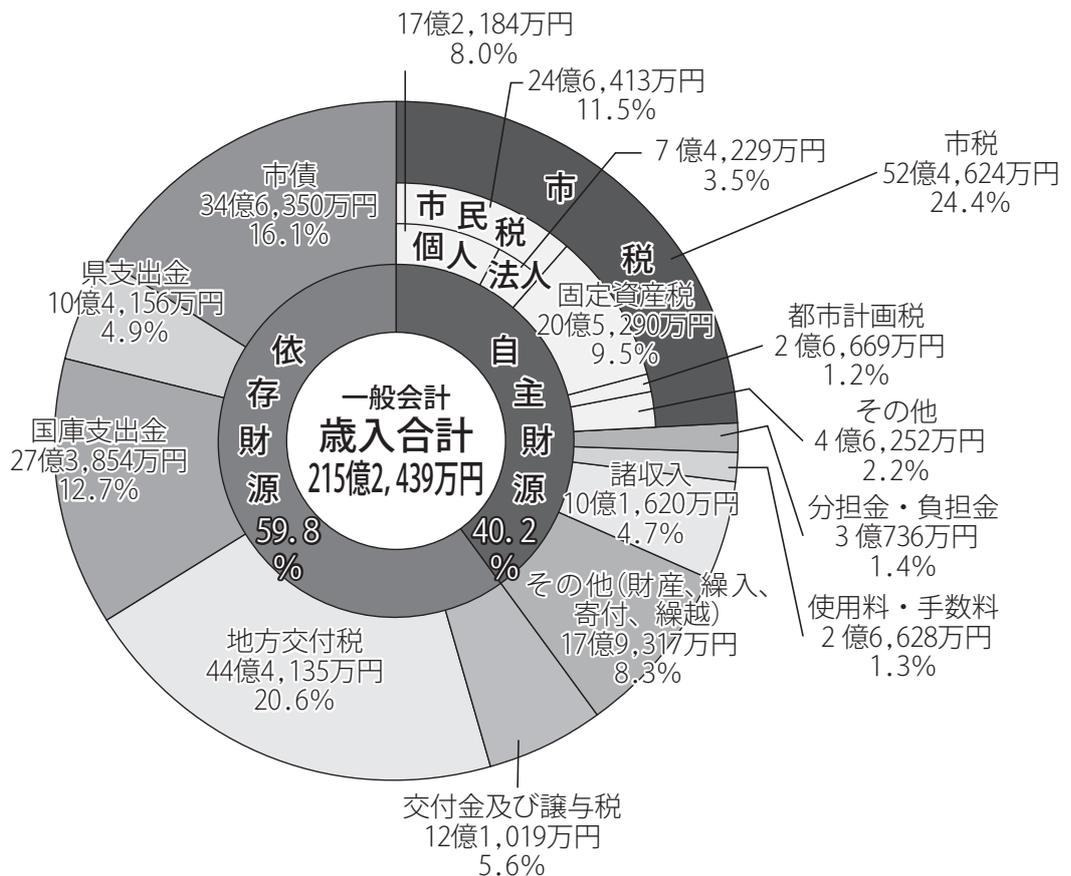
平成27年度決算の概要

懸案の重要事項であった新市庁舎、こもろプラザ、新焼却施設の大規模事業が完成したことにより歳出では投資的経費が増加し、歳入でも基金繰り入れや起債額が増加したことにより、歳入・歳出ともに過去最大規模となりました。

一般会計では、歳入から歳出を差し引いた実質収支は5億274万余の黒字、財政の健全化の指標となる実質公債費比率は、前年度比0・1ポイント減の10・0%で概ね健全財政は維持されていると報告を受けました。しかし、国民健康保険特別会計では、基金1億1千万円余を全額取り崩しており、今後も厳しい運営が予想されます。少子高齢・人口減少社会にあつて、将来を見通した健全で効率的な市政経営が引き続き必要となることから議会として、しっかりと質していきます。

一般会計 歳入総額 215億2,439万円

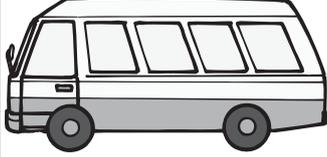
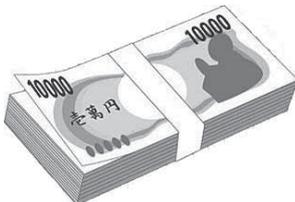
歳入



- 【自主財源】 市が自主的に確保できる財源(使い道は自由)
- 【依存財源】 使い道や金額が定められて国・県から交付される財源及び市債
- 【都市計画税】 公園・道路・下水道などの都市計画事業に充てられる目的税
- 【交付金・譲与税】 国や県が徴収した税を市町村に配分するもの
- 【地方交付税】 地方公共団体間の財源の不均衡を調整し、すべての地方公共団体が一定水準の行政サービスを提供できるように国から交付されるもの
- 【国庫支出金・県支出金】 特定の事務事業に対し使い道を定めて国・県から交付されるもの
- 【市債】 臨時的に多額の費用が必要となるときに、地方公共団体が国や銀行などから借り入れる資金

一般会計 歳出総額 206億1,688万円

政策別の支出状況（市民一人当たり477,729円の支出になります）

<p>1 子育て・教育 2,240,542千円 一人当たり51,917円</p> 	<p>2 環境 4,165,963千円 一人当たり96,533円</p> 	<p>3 健康・福祉 4,843,920千円 一人当たり112,242円</p> 	<p>4 危機管理・生活基盤整備 1,706,314千円 一人当たり39,538円</p> 
<p>5 産業・交流 1,819,056千円 一人当たり42,151円</p> 	<p>6 協働 77,685千円 一人当たり1,800円</p> 	<p>7 行政経営 5,763,409千円 一人当たり133,548円</p> 	<p>8 (内) 借金返済 1,527,182 (千円) (一人当たり35,387円)</p> 

※人口43,156人で計算（平成28年9月1日現在外国籍住民を含む）

平成27年度 各会計別決算状況

会計名		歳入決算額	歳出決算額	
特別会計	公平委員会	25万円	19万円	
	国民健康保険事業	56億2,928万円	55億5,489万円	
	後期高齢者医療	4億1,031万円	4億791万円	
	介護保険事業	36億5,780万円	35億2,799万円	
	奨学資金	361万円	361万円	
	住宅新築資金等貸付事業	6,489万円	596万円	
	農業集落排水事業	2億7,132万円	2億6,224万円	
	小諸公園事業	1億4,247万円	1億2,348万円	
	高峰財産区	295万円	12万円	
	御牧ヶ原財産区	155万円	42万円	
	古牧財産区	239万円	26万円	
	滋野財産区	51万円	3万円	
	乗瀬地区市有地管理事業	9万円	2万円	
企業会計	水道事業	収益的収支	10億2,941万円	8億7,936万円
		資本的収支	5億9,003万円	8億61万円
	公共下水道事業	収益的収支	15億2,971万円	12億9,860万円
		資本的収支	6億9,767万円	12億7,747万円

同和関連・予防接種で討論 本格運行スタート「こもろ愛のりくん」の 事業費増額補正などを可決

平成28年度第5回9月定例会は、8月30日から、9月23日の25日間の日程で開かれました。本定例会での理事者から提出された案件は、決算補正予算関係、人事、条例が29件と土地開発公社経営状況1件が提出され、それぞれ同意、可決、認定しました。

主な議案

◆決算

平成27年度小諸市一般会計歳入歳出決算認定について

過去最大となった平成27年度決算について、「第9次基本計画の実績に対する行政の自己評価」及び「総合計画審議会における第三者評価」を踏まえて審査を行いました。一般会計の決算認定では、人権政策費で討論があり、採決の結果賛成多数で認定しました。小諸市等公平委員会特別会計ほか12の特別会計と2つの企業会計については、全会一致で認定しました。

◆補正予算

平成28年度小諸市一般会計補正予算（第5号）

今定例会では、一般会計の歳入歳出予算をそれぞれ1億9千400万円増額し、予算の総額を歳入歳出それぞれ189億円とする補正予算案が提出されました。

保健衛生費の予防接種事業で討論があり、採決の結果賛成多数で原案可決となりました。

可決した補正予算の主なものは、次のとおりです。

- 総務費では、信州ふるさと応援寄付金事業で4千万円の寄付額の増額を見込み、歳出では、新たなシステム構築のための予算2千49万円を増額。
- 民生費では、介護予防

や生活支援拠点の整備を行う事業者へ開設準備のための補助金4千55万円を増額。

○衛生費では、B型肝炎ワクチンが定期接種に追加されるため、医療品及び予防接種委託料362万円を新たに追加。

○農林水産費では、新規就農者3名が新たに補助対象となったため、補助金450万円を増額。

○教育費では、荻原中学校の屋根の防水補修工事費として1千140万円を新たに追加。

○土木費では、10月1日から本格運行を開始する公共交通システムの

経費として、運行主体の小諸市コミュニティ交通協議会への負担金1千700万円を増額。

平成28年度小諸市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）

既定の予算に1億552万6千円を追加し、歳入歳出予算の総額を56億2千152万6千円とするものです。

主な内容は、保険給付費について、7月までの実績を勘案し、9千962万円を増額。

討論

●平成27年度小諸市一般会計歳入歳出決算認定について

人権政策費の決算の認定について、次のとおり討論がありました。（採決の結果、認定しました。各議員の表決状況は下記表のとおり）

反対討論

部落解放同盟は市の補助金が収入全体の72%を占め、支出も各種大会・集会等が多くを占めている。本来の補助金の目的がどのように生かされたのか検証が十分とは言えない。

同和会も予算・決算がどの項目も全く同額であ



本格運行をスタート

小諸市農業集落排水施設条例の一部を改正する条例



り不可解なもの。
同和関連決算は特別扱いされた支出であり、認めることはできない。
行政監査を求める。
賛成討論
人権政策、人権教育の中心である同和問題は、当事者の主体的な活動が不可欠であり、その活動を支援する運動団体への補助金等も適切です。
部落差別が依然として残る社会であることから、差別を受けても負けない、差別撤廃に向けて力強く生きるための素地づくりとしての解放子ども会への支出も適切であったと理解しています。

●平成28年度小諸市一般会計補正予算(第5号)について

保健衛生費のB型肝炎ウイルス予防接種定期化について、次のとおり討論がありました。(採決の結果、原案可決となりました。各議員の表決状況は下記表のとおり)

反対討論

日本では母子感染防止事業が実施され、感染をほぼ100%防止し、乳幼児の感染対策ができています。一方、使用されるワクチンには複数の有害物質が入り、世界で死亡や副反応被害が報告されている。国が決めたからとそのまま実施するのではなく、市民の安全・安心を第一に考え、正確な情報提供に努めるべきで、現状では不十分だ。

賛成討論

B型肝炎ウイルスの感染経路である「母子感染」を防ぐ定期接種に対する予算は、赤ちゃんを同疾病から守るだけでなく、ウイルスのキャリア

となる可能性を断ち、蔓延予防の意味で、公衆衛生上からも必要と考える。副作用等に関する懸念、疑問が皆無とは言えないが高度な検討を経た結果であり、本議会での賛否両論の討論は、接種時の安全性への警鐘となる。

人事

今定例会では、任期満了に伴う教育委員会委員の2名の任命同意と、同じく任期満了による、人権擁護委員1名の推薦に対する意見を求められ、それぞれ全会一致で同意しました。

●小諸市教育委員会委員

塩川 秀忠氏(新町)
柳澤由美子氏(井子)
任期は、平成28年10月1日から平成32年9月30日までの4年間です。

●人権擁護委員

山下千鶴子氏(大手)
任期は、平成29年1月1日から平成31年12月31日までの3年間です。

議案に対する表決状況

本欄に記載以外の議案については全会一致で原案可決しました。 (賛)は賛成、(反)は反対を表しています。

議案名	高橋公	土屋利江	掛川剛	小林一彦	丸山正昭	山浦利夫	早川聖	竹内健一	柏木今朝男	神津眞美子	清水喜久男	依田善典	中村憲次	小林重太郎	田中寿光	福島鶴子	柏木博美	林稔
平成27年度小諸市一般会計歳入歳出決算認定	(賛)	(賛)	(反)	(賛)	(賛)	(賛)	(反)	(賛)	(賛)	(賛)	(賛)	(賛)	(賛)	(賛)	(賛)	(賛)	(反)	(賛)
平成28年度小諸市一般会計補正予算(第5号)	(賛)	(賛)	(賛)	(賛)	(賛)	(賛)	(賛)	(賛)	(賛)	(反)	(賛)	(賛)	(反)	(賛)	(賛)	(賛)	(賛)	(賛)

※1 議長は表決には加わりません。

陳情の審査結果

種類	件名	氏名	結果
陳情	奨学金制度に関する陳情	日本労働組合総連合会長野県連合会 会長 中山千弘 他1名	趣旨採択

9月12・13日
経済建設
委員会
報告

■平成28年度小諸公園事業特別会計補正予算(第1号)

質疑

懐古園の桜の樹勢回復について専門的な樹木医はいるのか、また長期的な計画を立てて管理していく必要があるのでは。

答弁

専門的な樹木医はおらず、日本さくらの会会長や、小諸八重紅枝垂保存会の皆さんの助言を頂きながら専門的な業者をお願いする予定である。また、危険を伴う箇所もあるため、懐古園全体の維持管理も含め計画をしっかり作って行く。

■平成27年度小諸市一般会計歳入歳出決算認定について

質疑

ワイン特区の認定を受けたがワインナリーをどう展開するのか。

答弁

現在ワイン生産者は自分のオリジナルワインが欲しいという方が多い現状である。今後必要となる醸造については、ワイン生産者の経営面から収益を上げるため共同醸造所を希望されている。

市で作ってほしいということではなく、自分達の経営の勉強会の支援を要望されている状況であり、国庫補助の導入について支援をして行きたい。

質疑

六次産業化ネットワークの中でどんな商品が開発されているのか。

答弁

商品の開発については、補助金を出してジュースやニンジンジャムの開発を行った。しかし、商品開発だけでなく良食味米の取り組みについても支援を行い、また、ジャムの日の制定に伴い、昨年からジャム協会工業組合と連携してPRに繋がる取り組みをしている。

質疑

環境美化、緑化対策事

業の花いっぱい運動で多くの団体が参加し、協力



ブドウ畑の視察の様子

してもらっているがその趣旨が見えない。おもてなしとして運動を広げてはどうか。

答弁

沿道景観の形成や地域の活動の中で住民の皆さんがコミュニティ活動を通じて花を増やしましょうという目的の事業である。現在は、行政区の花壇や公民館前等関係団体が管理しているところが多い。都市計画課では住民参加という中で駅前の停車場ガーデンから相生坂公園も含め花木の公園整備を進めており、今後花いっぱい運動を続けていきたい。

■平成28年度小諸市一般会計補正予算(第5号)

質疑

市単道路整備事業について、財政的に余裕がない中で、現状のツギアテ補修による対応に理解を求めるのも行政の仕事ではないか。

答弁

丁寧に説明し、理解してもらえようになりたい。

質疑

愛のりくん、愛のりすみれ号の1千700万円の補正の詳細な理由は何か。また、これについては(株)まちづくり小諸の詳細見積もりを提示し説明のこと。

答弁

増額の要因としては、ダイヤ見直しによる運行時間の増、乗客数・乗降場所の増による応援対応の増、川辺線の増設、予約補助システムの改良更新費用の増。減額の要因としては、システム改良によるオペレーター1名減および会計士・労務士費用の減。増減の差引きが補正額である。

9月13・14日
文教総務
委員会
報告

■平成27年度小諸市一般会計歳入歳出決算認定について

質疑

セーフコミュニティ推進事業の推進協議会と各対策委員会の開催回数が計画に比べ少ない理由は何か。また、今後の再認証はどうか。

答弁

平成29年11月に5年経過となる。この間、再認証について明確な方針がないため推進協議会の開催を見送ってきた。自殺対策委員会と交通安全対策委員会は活発に活動している。再認証は、認証手続き、式典などで1千万円と試算しており、それが妥当かを含めて推進協議会に諮りたい。

質疑

防犯灯の設置状況はどうか。

答弁

27年度区からの申請が86所あったが、現場を確認した結果、53灯を設置した。また、白熱灯からLEDへの切り替え工事を37カ所行った。

質疑

高地トレーニンングエリア構想の現状はどうか。

答弁

平成27年に方針を定め、健康づくり、合宿の受け入れ、関連施設の整備を掲げ取り組んでいる。健康づくりでは「てくてくこもろ人」の開催、合宿については関係施設と連携し誘致のためのPR活動を行っている。

質疑

保育園の改築計画はどうか。

答弁

荻原保育園、中央保育園の老朽化が著しい。平成19年度に公立保育園の在り方検討委員会から保育園の統合が必要であるとの答申を受けたが、この間、私立幼稚園の認定子ども園への移行を推進するなどの動きから保育

園の統合計画策定を見送ってきたので検討したい。

質疑

正規保育士と臨時保育士の賃金格差が大きいので、臨時保育士の待遇改善が必要でないか。

答弁

保育士が不足しているが、その背景には待遇が良くないことがあるので、是正に向けて検討したい。

■平成28年度小諸市一般会計補正予算(第5号)について

質疑

芦原中学校雨漏り修繕で、ウレタン塗布工法とした理由はなにか。

答弁

ウレタン塗布工法以外に屋根を被せる工法とシート防水工法を検討したが、現状の屋根材がFRP樹脂のためウレタンとの相性が良いという利点などから決定した。

■小諸市特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正

質疑

小諸市空家等対策協議

会設置に伴い委員の報酬を定めるものであるが、条例改正に伴う報酬の財源確保はどうか。

答弁

委員は公募も含めて11名を予定しているが、現状では確定していないため、今年度は予算流用により対応する。

■小諸市体育施設条例の一部改正

質疑

野岸の丘マレットゴルフコースの廃止はやむを得ないが、代替施設は考えているのか。

答弁

南城公園にマレットゴルフ場を拡張できないか検討したい。



9月14・15日
福祉環境委員会
報告

■平成27年度小諸市一般会計歳入歳出決算認定について

質疑

市内全域の水洗化促進について、接続率を高くするためにどのような取り組みをしているのか。

答弁

下水道法では下水道整備後3年以内に接続することを建物所有者に義務付けているため、3年経過したお宅を訪問して接続のお願いをしている。

質疑

糠塚園の利用者が公共交通システムの変更により3千人も減ったが対策を施したのか。

答弁

糠塚園で行う介護予防事業の開始時間を変更したが、根本的解決には至っていない。

質疑

「すみれ号」から「愛

のりくん」に変わった中で、いろいろな課題が出ている。部局間で共通認識を持って改善に向けた検討をしてほしい。

答弁

高齢者へのタクシー券助成事業もあるが、財政面であれもこれもという時代ではないので、サービスの充実に向けた連携が必要であると考え。

質疑

運転免許証を自主返納した市民に、タクシー券を交付する事業が27年度で終了となったが、高齢化が進む中、さらに需要が増すのではないか。

答弁

タクシー券がもらえるから免許証を自主返納するという高齢者はほとんどいなかった。高齢者は交通事故の被害者にもなりうるが加害者にもなりうるため、今後は自主返納を後押しするための啓発活動に切り換えていく。

質疑

今年の12月には民生児童委員の改選期を迎えるが、状況はどうか。



いる。また、小諸市では来年1月からマイナンバーカードを利用することにより、コンビニでの住民票の写し等の交付サービスが受けられるため、発行件数も伸びると予想される。

質疑

介護従事者の身体的負担軽減のために、介護ロボット購入費用に対し補助をするとのことだが、詳しい内容はどうか。

答弁

ロボットは、介護従事者が装着し、腰と背中を補助して軽い力で引き上げられるもので、価格は80万円から150万円ほどである。全国的に希望する施設が多い中、小諸市では3事業所が採択となった。

■議案第90号平成28年度小諸市一般会計補正予算(第5号)

質疑

マイナンバーカードの交付について、発行件数が市民の1割に満たないが、どのように感じているか。

答弁

国でもポータルサイトを立ち上げ、利便性を増すための取り組みをして



行政を質す^{ただ}

一般質問

一般質問とは、議員が「市政が市民のために適切に行われているか」を質すもので、代表質問と個人質問とがあります。

代表質問は、会派の代表者が質問するもので、3月・9月及び市長の改選後の初の定例会で行われます。(会派の人数により時間が決まります)

個人質問は、議員個人が質問するもので、一人1時間の持ち時間内で行政とやり取りが行われます。

代表質問 6名
個人質問 11名



平成27年度決算について・ 公共施設等総合管理計画について



新政会 代表
清水喜久男

質問

小諸公園事業特別会計でさらなる入園者増を図るための動物園整備の考え方はどうか。

市長

懐古園では桜祭りや紅葉祭りを開催し誘客の取り組みを行っています。さらなる入園者を増やすためには動物園の活用は重要です。しかし現状は限られた敷地の中で獣舎も手狭で老朽化が進んでいるので、職員や専門家の意見を取り入れ全体を見直す必要があると考えます。

質問

小諸市動物園は入園料や駐車場代が入園者に負担となっている。飯田市動物園では入園料

が無料であり、小動物が中心で獣舎はステンレスを使用しやすく親しみやすい動物園です。小諸も無料化はどうか。

市長

子ども達や高齢者が憩いを求めるなど親しみの持てる動物園を作るという意味では、無料化についても検討して行きたい。

質問

小諸市土地開発公社の債務超過と今後の工場団地整備の関係はどうか。

経済部長

平成27年度決算では、3億1千100万円余の債務超過であるため、保有地の売却に努めていますが、簿価での処分は難しい状況です。現在市及び公社に造成された工業団地等の区画はなく、工業誘致は民間用地の紹介をしています。企業は利便性の高い工業団地を希望しており、新規工業団地の必要性は痛感しているものの、造成には多額の費用がかかることから、財政状況や

経済状況を考慮して判断したい。
質問

国民健康保険事業特別会計では、平成26年度より8億1千万円余が増額となり、支払い準備金1億1千542万円を全額取り崩していますが、この状況をどのように考えていますか。

民生部長

単年度収支の中では平成22年度から赤字の状況であり、昨年度は全額を取り崩さないと決算が打てない状況でした。結果的には7千万円ほど次年度に繰り越しましたが、医療給付費の伸び等を考えると今年度も大変心配されます。

質問

公共施設等総合管理計画の策定状況はどうか。

財政課長

この7月に計画の方向性や計画期間、総合的な基本方針を決定しました。9月から10月で市民アンケートと所管課ごとの基本方針を作成し計画の素案とします。素案は11月を目途に作成しパブリックコメントの募集等を行い来年3月に計画を公表する予定です。

太陽光発電

環境基本計画の見直しと条例制定で対応を

質問

6月議会で質問したが、その後も市内各地で野立ての太陽光発電計画による混乱が生じている。この事態は環境政策に基本方針がないためではないか。

市長

環境基本計画で啓発活動のほか、企業や公共施設への導入を推進している。一方、環境条例で500㎡以上は届け出を要することとしている。

環境・景観の保全、災害の防止、地域との合意形成など小諸市の健全な発展と調和のとれた再生可能エネルギーの促進に向け、整合を図りながら進めていきたい。

質問

再生利用可能エネルギーの活用は原発に代わるエネルギーとして積極的に推進すべきもの。小諸市は日本でトップクラスの太陽光発電の適地だ。もっと積極的にしっかりとした政策のもとで取り組む必要がある。今のような無秩序な設置でなく、導入すべきところと規制すべきところをしっかりと位置付ける必要がある。環境基本計画は現在の状況とかけ離れたものと思うがどうか。

環境水道部長

そのとおりで、市の想定をはるかに超えた設置状況です。基本構想でも、このエネルギー関係の記述が少ないので策定あるいは見直しを行っていきたい。

質問

無秩序な設置には悪影響もある。周辺住民の合意形成が一層求められる現状だ。しかし、届け出制では一定の条件を満たせば周辺住民が十分に納得して

なくても受理せざるを得ないのが現状ではないか。

建設部長

環境条例に基づく届け出では地域の皆さんの同意まで詳しく規定されていないため、必要な書類が整っていれば受理せざるを得ない状況です。

質問

届け出には限界がある。県で作成した市町村対応マニュアルには条例のひな形がある。環境基本計画とセットで進めていったらどうか。

環境水道部長

自由な経済行為に対する制限、私権の制限になる。条例の制定は必要性も含めて研究したい。

質問

前県職員の副市長の考えは。副市長

27年度は農地を太陽光に転用する件数が県下で小諸市がトップ。诗情あふれる高原の城下町に、ピカピカ光っているものが農地なのか山林なのか屋根の上なのかわからない形で目立つところが本当に良いのか。環境基本計画を他の計画と整合させ進めたいかなければと思う。



日本共産党 代表
掛川 剛

平成27年度決算行政報告を受けて



市誠会 代表
山浦利夫

事業の選択と集中、新たな自主財源の確保・強化などにより、健全財政の維持を図っていく。

質問

成果説明書は財政運営にどのように反映されるのか。

市長

本年度は過去3年間の取り組みを踏まえ、第10次基本計画策定における方向性として今後の改善点を検討した。改善点を踏まえ、更なる事業の取捨選択や優先度の設定を進めていく中で、財政の健全化を図っていききたい。

質問

将来を見据えた計画的な財政運営の考え方は。

市長

総合戦略による定住人口増加の事業の重点化や戦略的な視点による事業の選択と集中、民間の発想と着眼点による行政改革など積極的に進めながら、簡素で効率的な市政運営に取り組みでいく。

質問

生活道路維持補修の区要望事業への対応は、新制度に移行して3年目になる。問題点や課題等洗い出しながら見直しも必要かと考えるが、制度の見直しについての考えは。

建設部長

各区の申請に基づいて市全体での優先順位を定めて執行してきている。優先順位の基準は、緊急性や必要性、利便性の向上、防災・減災の効果等から決定している。当面は現制度により進めて行きたい。

質問

「民間の発想と着眼点で市政を創り行動する」とは、具体的にはどのように考えているか。

市長

これからの行政は常に誰のために、また、何のための仕事をしているかを考え、住民を起点として改善・改革を継続的に進めていく必要がある。少ない財源で最大の住民満足度を獲得するという意識の転換が、今後の市政経営には求められている。

質問

市役所改革について今後どの

ように取り組んでいくのか。

市長

具体的な取り組みとしては、小諸版カイゼン方式による行政手続きの迅速化や組織機構の見直しを含めた職員の適正配置を進めて行きたいと考えている。

今後、更に改善の理念を職員の中に浸透させ、取り組みを進めて行く。

質問

政策会議に求めるもの、期待するものは何か。

市長

行政の事業は複雑多岐にわたっている。最高の市民サービスを提供するために何が 필요한か、何が要らないのか、議論する場という意味を含めて、政策会議の必要性、重要性は今後も引き続きあると考えている。

質問

人口減少社会を迎え、広域連携の強化は大変重要と考えている。新たな課題に対応していくための検討組織の立ち上げについてはどうか。

市長

新たな課題という中で必要に応じて検討してまいりたい。



創正会 代表
竹内 健一

「行財政改革・教育行政」の信を問う！
「2025年問題・学校改築計画等」の課題を質す！

質問

行財政改革に対し、方向性と課題は何か。

市長

小諸版カイゼン方式による行政手続の迅速化により、市民の市役所満足度の向上を目指し、また職員の適正配置を図り、残業ゼロを目指した業務改善・効率化を進めていく。

財政改革では、人口減少などによる税収減など、財源が限られていく中、無駄を省く歳出削減の取り組み、新たな財源の確保では、ふるさと納税ポータルサイトを9月15日から導入しており積極的に取り組んでいく。

質問

交付金ありきでの施策の取り組みについては事業継続のため多額の単費投入となり慎重に見極めなくてはいけないがどうか。

市長 市幹部職員と検討していく。

質問 今後10年間（平成37年まで）の長期財政試算の課題は何か。

市長 大型事業終了後も歳出が歳入を上回り、財源不足を基金繰入金で補う状況が続くことから、基金残高が右肩下がりで減少を続け、市債残高は増加する試算とみており、さらなる事業の選択と集中を行い、歳入面では新たな自主財源の確保・強化等を図る必要がある。

質問 少子高齢化（2025年問題）及び人口減に対する施策は何か。

市長 少子高齢化や人口減での大きな課題は、社会増減であり、各自治体の独自の対応策がより効

果が上がるかと考えられます。「若い世代が家を持てるまち」をコンセプトとして具体的に進めている。

また、「小諸未来プロジェクト」の高齢者福祉の充実や、婚活事業の支援、子育て支援、家庭教育支援等、施策に基づく具体的な事業の検討も進めている。

予算編成は、これまで膨らんでいた予算規模を平常モードに戻し優先順位は全ての部局で前年度評価し、事業の縮小・廃止を含め徹底した見直しを行い施策内での事業の順位付けを行った。

市長

市の財政状況、今後の児童生徒数の推移などの必要な情報を十分に示し、共通の認識の上で立って議論をしていく。

将来の学校のあり方を検討する上では、あらゆる可能性を排除せず議論し、そのためには、様々な状況を想定した調査・研究は欠かせない。

質問 少子化が進む中での教育行政の取り組みについてどうか。

市長 特別支援教育や信州型コミュニケーションスクールに代表される地域総ぐるみによる教育などに力を注ぐほか、ICT（情報通信技術教育）をはじめとする学習環境の充実を図る。

質問 学校改築計画の調査・研究についてどうか。また、調査費を盛ったかどうか。

市長 将来的に児童生徒数が減少するとの想定を踏まえた学校の配置について、他の自治体の事例等、必要な情報を収集しているほか、全国的に取り組みが見られる小中連携・一貫教育については、情報収集とともに信濃町の事例を視察しており、得られた情報を基に、それぞれのメリット、デメリット等も含め、市民の皆様と情報を共有し議論を展開していく。

市長 長期学校改築計画の策定に向け、「市民の皆様とともに学校を取り巻く状況等について学ぶ場」で、これまでの調査・研究の内容を示し、早い時期に有識者を含めた検討の場を設け、具体的な検討を進めていく。また、職員への調査費は計上していく。

市長 将来的に児童生徒数が減少するとの想定を踏まえた学校の配置について、他の自治体の事例等、必要な情報を収集しているほか、全国的に取り組みが見られる小中連携・一貫教育については、情報収集とともに信濃町の事例を視察しており、得られた情報を基に、それぞれのメリット、デメリット等も含め、市民の皆様と情報を共有し議論を展開していく。

小泉市政と市民サービスについて



改革の嵐 代表
福島 鶴子

想像以上に事務作業が多く、複雑多岐にわたっていると感じています。市民に向かって仕事をするのが本来であり、時に切り捨てる勇気も必要であると考えています。

質問

質問 市長の「市民サービス」への考えは、どう進められているか。

市長

私の考え方は、市役所を訪れた市民が何を求めているかを察して対応する、民間感覚での対応です。具体的には、今市民アンケートを指示し、市民の皆さんが何を求め、職員に何が欠けているかを検証し、意識改革につなげたいと考えています。

質問

市役所の仕事について、事務作業が多く、市民に顔を向ける時間がとれないと聞かすが、これについてどう思うか。

市長

市長への提言や意見に対し受け取ったか否かも含め、何の返事もないと不信感を募らせている市民がいるが承知しているか。

市長

形式上は、企画課を経由し、市長決裁としている。質問のようなケースがあつたとすればお詫びし、今後徹底を図りたい。

質問

教育の方向性を示す「大綱」と「教育振興基本計画」は重みを考え「大綱」の策定を先ず、しっかりとやるべきと考えるがどうか。

教育長

事実上、大綱が先に確定され施策として振興基本計画に落とされる形になっています。

「安心して住み続けたいまち小諸」にするために



公明党 代表
柏木 今朝男

観光ブランド活性に向けた情報戦略について、具体的には、どのようなものを想定して、いつまでに制作をしていくのか。

市長

質問 平成27年度決算について、行財政運営の課題をどう捉え、今後の運営にどう繋げていくのか。

市長

厳しい状況が予想される中、戦略的な視点で事業の選択と集中を積極的に進めると共に、民間の発想と着眼点で市民の立場に立った行財政改革を進めたい。

質問

昨今の大規模災害に備え被災者の援護のための基礎台帳である被災者台帳（被災者支援システム）を早急に導入すべきでは。

市長

緊急に導入を検討したい。

質問

成功例に倣い、可能な限り製作のみの投資にとどめ、テレビ番組、新聞記事、インターネットなどの無料媒体を徹底して活用することにより情報を発信し、小諸市を広くPRしていきたい。職員を研修に派遣することのほか、専門家から意見を聞くなど、準備を進めている。

質問

「18歳選挙権」による投票率について、将来を担う若者の声を政治に反映させ、若者の希望を実現できる社会にしなければならぬ。そのために特に若年層の投票率向上が不可欠であり、期日前投票所の増設も必要では。

選挙管理委員長

これからの検討課題として、スーパード、高校などがあるが、方向性を模索していきたい。

全国学力状況調査結果の公表について

質問

小諸市の児童生徒の基礎学力の習得度をどう捉えているか。

市長

平成27年度の全国学力状況調査では全国平均を多少下回っております。しかし、その差が大きく開いているわけではなく、私としましては子どもたちの普段の学習の状況や様々な活躍の様子などからして、小諸市の児童生徒の基礎学力が特に劣っているという状況にないと考えています。

質問

県内19市の中で今年度の全国学力状況調査の結果を公表しないのは、小諸市と茅野市の2市



小林 一彦
(市誠会)

だけではありません。非公表とした理由は何か。

教育長

調査結果につきましては学校の序列化あるいは過渡な競争につながらないように十分配慮すべきであり、結果を真摯に受けとめ、それからこれからの指導に役立てていくことが何よりも大切であると考えております。

質問

小諸市の児童生徒全体の平均正答率については、学校の序列化が起こることはなく、過度な競争をおおるおそれの蓋然性は極めて低いので公表すべきだと考えるが。

教育長

公表してほしいという気持ちと公表された結果によってまたらされるもの、その関係の中でプラスが多いかマイナスが多いか予想するわけですね。その中で現在のところではマイナスのほうが多いだろうというふうな判断をしております。

「広域連携」

こもろ愛のりくん・佐久平アクセス道路・グラウンド

質問

佐久市とはこもろ愛のりくんの佐久平駅・塩名田バス停への乗り入れ、東御市とは愛のりくんの雷電くるみの里・布引観音への相互乗り入れ、御代田町へは小諸市の愛のりくんグループへの参加を提案してはいかがか。

市長

佐久市とは市民の皆さんの利便性を思えば必要かなと思う。東御市とは布引観音・雷電くるみの里を乗降場所にするのは大変いいことだと思う。御代田町とは、そのような提案が可能かどうかをまず検討したい。

質問

佐久平駅アクセス道路について



高橋 公
(市誠会)

て佐久市側の現在の状況と小諸市の今後の連携の方針はどうか。

市長

佐久市では新設道路の早期実現を目指し、常田・赤岩区が協議会を設立し、要望活動等の取り組みを行っている。小諸市では三岡地域をはじめ佐久平駅アクセス道路整備の地域要望の機運が高まってきたため、今後佐久市と連携し取り組んで行く。

質問

子どもたちのスポーツで一番大事なのは試合数が多いことだと思う。しかし小諸市内で少年野球の大きな大会をやる場合、無料で使えるグラウンドが足りない。隣接市町と体育・文化施設の相互補完（無料化）を広域連携で進めてはどうか。

市長

相互の住民益につながるのであれば既存施設の減免適用範囲の拡大という考え方もある。スポーツ交流を通じた広域連携を大切に行きたい。

地域産業の振興について 消防団の待遇について



丸山正昭
(市誠会)

質問

小諸市の産業の現状をどう捉えているか。

市長

積極的な企業誘致や創業を支援し、市内事業者数を増加させる取り組みと合わせて、これまで以上に移住や就職相談等の支援による就労者の確保の取り組みを進めてまいります。

質問

地域産業の振興をどう図っていくか。

市長

首都圏からの交通の利便性や自然災害が少ない、晴天率が高い、自然豊かで子育て環境が充実している住環境等を売りとし

て、民間用地や開発が可能な用地を案内していき、振興に向け施策、事業を着実に進めながら社会情勢にマッチした支援内容とするための制度の見直しや、小諸市商工業振興条例の見直しなどを行うとともに、六次産業化による新たな産業の創出など、地域産業の振興を図っていきたいと考えております。

質問

幹部団員の待遇についてどのように考えているか。

市長

条例の定めにより年間の報酬の支給、退職報奨金の支給、公務災害補助、訓練等の出勤手当は費用弁償として支給している。又、消防団員の処遇につきましては、報酬や手当面に限らず、ハード面の装備関係も計画的に充実していきたいと考えております。改善につきましては、全体の消防団員の問題と捉え、県下の市町村の状況も十分に調査し検討してまいります。

公約 「小諸に元氣と誇りを取り戻す」 「高齢者福祉、環境保全、観光行政」について



中村憲次
(新政会)

質問

高齢福祉対策の重要な位置づけである、介護予防地区指導者の活動についての課題をどう捉えているか

民生部長

民生児童委員、保健推進委員また、介護予防地区指導者の皆さんによって地域の介護予防活動が支えられている事には大変感謝をしている。今後は行政の高齢福祉課も入って、地区によっては活動の差がありますので、区長会にも声がけをして、地区活動の醸成を図って行きたい。

質問

現在計画中の天池地区の太陽光発電施設について、生活環境

への影響、また風致景観上の観点から、行政の対応はどうか

市長

小諸市は観光が目玉でもありまた、自然環境を守っている中で、それぞれ小諸に移住されて来ておられる事は承知している。今後無秩序な乱開発には、個人的には何とかしたいが、現行の法律では規制が難しいため、環境省、経産省関係の機関とも相談をして、条例制定が出来るのか検討をして行きたい。

質問

「小諸に、元氣と誇りを取り戻す」観光施策についての取り組みはどうか

市長

観光地域づくりを進める為、仮称「小諸市観光局」29年4月のスタートに向けた、立ち上げの準備委員会を進めている。インバウンド対応も含め看板、パンフレット等受け入れ対応も充実させて行きたい。

浅間山麓ジオパーク構想について

質問

観光及び産業振興に利用できないか。

市長

浅間山麓ジオパーク構想については、群馬県嬭恋村と長野原町が構成団体となっている浅間山麓ジオパーク構想推進協議会が浅間山北麓ジオパーク構想として、日本ジオパークネットワークへの加盟申請をしているところであり、長野県側の4市町においては、オプザーバーとして協議会への参加をしている形となっております。

小諸市だけでなく、浅間南麓全体での合意形成が大変重要であると考えておりますので、9



田中 寿光
(創正会)

月に発表される浅間北麓ジオパーク構想の審査結果や北麓の取り組み状況、また、他のジオパークの活動状況等も参考にしながら、引き続き浅間南麓において協議を進めてまいりたいと考えております。

質問

火山防災の教育や啓発の手段とならないか。

市長

ジオパークの認定に当たっては、教育研究活動や防災安全が要件の一つとなっており、地球活動が生み出した地形や地質、植物や生物、人々の暮らしや歴史など五感をフル動員し見て、聞いて、触って、嗅いで全身で感じる学ぶというものですので、議員ご指摘のとおり、火山防災教育や啓発の動機付けにはなり得るものと思います。市の取り組みとして小学校で集団登山を実施し、市民を対象とした火山防災講演会や出前講座等を実施しております。

今困っている市民への支援策の検討を

質問

小諸市の高齢化率は30%になり、高齢者のみの世帯が増え、決められた集積所へのごみ出しが困難世帯がある。坂のまち小諸の地域性からも、そういった世帯への支援策として、個別収集の検討は出来ないか。

市長

高齢者のみでごみの排出が困難な方については、ご近所の皆さんや地区の衛生委員などにそれぞれ対応していただいていると聞いている。今後より一層の地域協働が重要になってくると考えている。

質問

度重なる国保税の引き上げで、

市民負担は限界にきている。滞納を減らすためにも「払える国保税」にするために、税負担の軽減についてはどうか。

答弁

小諸市市税条例に基づき、低所得者等の軽減措置を行っている。引き続き税負担を考慮した制度の活用をしていく。

質問

国保には均等割があり、子育て世帯では子どもが多いほど国保税が高くなる。多子減免をしている自治体もあるが、市長の考えはどうか。

市長

低所得者等に対する税負担を検討しながら、税負担が過度にならないよう制度の活用をしていく。



柏木 博美
(日本共産党)



安心して出産、子育てができる環境整備を



土屋 利江
(公明党)

民生部長

実績を確認し、検討します。

質問

県看護協会に不妊相談コーナーネーターがいるが、相談体制の整備・拡充が不可欠と思うが小諸市の取り組みはどうか。

民生部長

来年度には、仮称ですが子育て世代包括支援センターを設置し、対応できるようにしていきたい。

質問

産後サポート事業の助成券の交付と利用状況はどうか

市長

7月末までに57人。20万4千円の利用実績がありました。

質問

上田市や東御市では、産後シヨートステイが実施されているが、市外でも利用できる助成券はどうか。

民生部長

来年度以降の実施に向けて、検討していきます。

絵師 狩野祐青英信「唐獅子牡丹屏風」に光りを!!
歴史的文化のかおる小諸を守り発展させよう



早川 聖
(日本共産党)

質問

郷土博物館には、市民等から寄附を受けた武器、調度品、小諸藩主ゆかりの品や藤村、牧水露伴、虚子、亜浪などの文人達を紹介したものの肖像も展示をしているが閉館している。ここには寄贈時の価格で1千万円もの狩野派の

質問

昨年6月議会で質問した郷土敷石遺構や古墳など、約50件ある国・県・市指定文化財の現状について、その後の現況についてしっかりと把握されているのか。

教育次長

担当者が半年に1回パトロールをしている。

質問

パトロールは外観のみなのか、所有者宅に訪問して聞き取りとかはしていないのか。

教育次長

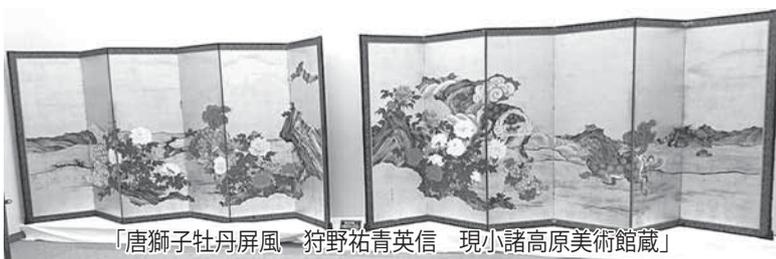
どこまでやっていくのか承知はしていないが、外観からだけという気もしている。

質問

郷土博物館には、市民等から寄附を受けた武器、調度品、小諸藩主ゆかりの品や藤村、牧水露伴、虚子、亜浪などの文人達を紹介したものの肖像も展示をしているが閉館している。ここには寄贈時の価格で1千万円もの狩野派の絵師が描いた屏風が展示棚から出され、無造作に博物館の片隅に置かれていて。とても保存・保管がなされていない。

市長

早急に対応を何とかしなければいけない。



「唐獅子牡丹屏風」狩野祐青英信 現小諸高原美術館蔵

命に係わる予防接種は、 正確な情報提供が大前提!!

質問

新しく追加されるB型肝炎ワクチンの予防接種については、この夏、副反応被害が出て訴訟となった子宮頸がんワクチン問題の直後だが、どのように取り組む考えか。

市長

法令に沿ってスムーズに実施できるように準備を進めている。

質問

定期接種ということで、無料で受けられるが、受けなければいけないのか。

民生部長

勧奨はしていくが、受ける、受けないということは、受ける方の判断になる。



神津眞美子
(新政会)

質問

受けるのは新生児なので、保護者が判断すればよいということか。

民生部長

それで、よろしい。

質問

B型肝炎ワクチンも海外では死亡例や生活に支障をきたしている事例が報告され、警鐘を鳴らされている。医療界ではインフォームド・コンセントがある。リスク情報も出して通知すべきではないか。

民生部長

予診票に効果、目的、重篤な副反応の可能性、その救済制度があることを承知して同意していただくようになっていく。

意見

小諸市で年間に誕生する赤ちゃんは320人ほどで、一人ひとりが大切な存在だ。勧奨するに当たっては、判断する材料、情報をきちんと出して、丁寧な対応をすべきだと考える。

建築確認「不要区域」の今後についてはどうか。 自然資源「千曲川」・「浅間ジオパーク」の活用について

質問

都市計画区域でありながら木造住宅などで建築確認が不要な川辺地区(旧川辺村)について、県下で唯一の不要地域である。今後、廃止する考えはあるか。

市長

要する地域と要しない地域が市内にあるのは不均衡。災害に強いまちづくりを進めるには「廃止」が望ましいことで、地域住民と合意形成に向けて協議を始め、廃止の方向で検討してまいりたい。

質問

千曲川は小諸の知名度を全国的に押し上げたまさに小諸ブランド。観光客、市民ですら岸辺

で遊ぶこともなく、まちづくりの構想にも入っていない。親水公園など自然資源の活用で地域振興に寄与の考えはどうか。

市長

千曲川は小諸市の象徴のような存在、資源として十分に活用できていない。小諸ブランドの一つである千曲川の魅力を伝える取り組みを検討していく。



「岸辺で親水できないか!」

質問

「浅間ジオパーク」構想の捉え方と、他の市町村との連携と取り組みについてはどうか。

市長

ジオパークは観光面だけでなく、貴重な地質や地形を教育や地域の振興に活かせる。浅間山麓広域観光推進協議会で小諸市がイニシアチブをとっていく。



林 稔
(無所属)

「学校施設の整備」・「こども食堂」
「若者の意見を政策に！」



小林重太郎
(改革の嵐)

質問

小中学校の施設の整備について、どのように対応するのか。

市長

規模の大きな改修は、教委事務局が行い、軽微な修繕に関しては一定額を各校に配分し、学校長の裁量や工夫が活かされるような方法を検討している。

質問

「こども食堂」について、どのように認識しているか。

教育長

子どもたちだけでなく

若者から高齢者までを含めた地域の皆さんの交流の場であり、ひとつの居場所であると認識している。

質問

若者の意見・アイデアを政策サイクルに組み入れる仕組みを考察してはどうか。

市長

未来の小諸を設計する上で必要なことだと感じている。大人では発想できない子ども、若者ならではの考えを聞く、意見交換の場を設けることから始めると良いと考えている。
若者の情報発信力の活用など、若者が主役の政策は重要である。具体策を検討していきたい。

議員紹介コーナーへ おいでなんし パート4

質問事項 ①居住地 ②趣味 ③座右の銘 ④つぶやき

12番 依田善典議員
会派 創正会



- ①菱野区
- ②旅行
- ③和して同ぜず
- ④多様性を尊重し新しい小諸の創生に努力したい。

11番 清水喜久男議員
会派 新政会



- ①御影区
- ②養蜂・家庭菜園
- ③実るほど頭を垂れる
稲穂かな（目標）
- ④蜜蜂は女王を中心に一万匹位の働き蜂で成り立ち、雨の日以外精一杯働いている蜂を見ると癒される。

10番 神津眞美子議員
会派 新政会



- ①相生町
- ②食べ歩き・読書
- ③吾以外皆師
- ④独に続き、英で女性首相が誕生し、米も女性大統領になりそう。日本でも小池都知事の奮闘に、同じ女性として元気をいただいています。

議会制度改革検討委員会 報告

議会制度改革検討委員
会では、「小諸市議会基
本条例」の制定に向けて、
策定作業を進めてきまし
た。

小諸市議会基本条例案

市民説明会を開催

9月20日から10月16日
までの間、市民の皆様か
らのご意見をお伺いする
ために、パブリックコメ
ントの募集を行うととも
に、10月12日には、ステ
ラホールにて、条例案の
説明会を開催しました。

多くの市民の皆様は足
を運んでいただき、重要
なご意見や問題提起をい
ただきましたことに感謝
申し上げます。また、パ
ブリックコメントでも貴
重なご意見をお寄せいた
だき、あわせて御礼申し
上げます。



説明会の様子

12月定例会へ

条例案を上程

現在、市民の皆様から
お寄せいただいたご意見
を反映させ、より充実し
た条例となるよう、最終
作業を行っています。

今後は、12月定例会に
条例案を提案してまいり
ます。

議会基本条例Q&A

Q 議会基本条例って
何？

A 議会及び議員の責
務を明らかにし、

議会の民主的な運営や議
会活動に関する基本的な
事項を定めるもので、議
会の「最高規範」となる
ものです。

議員は、この条例に則
り「市民福祉の増進」の
ために、様々な活動を行
ってまいります。

Q なぜ、条例を策定
するの？

A 小諸市自治基本条
例の第5節「市議
会の責務」をより具体化
し、市民の皆様に見える
よう条例を策定するもの
です。

また、議員もこの条例
を策定し、議員の規範と
して運用する中で、自ら
の活動を検証し、「開か
れた議会」「行動する議
会」として、責務を果た
すために明文化するもの
です。

広報委員会 報告

議会広報委員会では、

定例会が終わると「議会
だより」を作成し、市内
の全世帯に配布しており
ますが、読んでいただけ
ていますでしょうか。も
っと興味を持っていただ
ける議会だよりに、手に
とって読んでいただける
議会だよりにしたいと委
員会では検討が始まりま
した。

五月には「ギカイの時
間」という斬新な議会だ
よりを発行して注目を浴
び、マニユフェスト大賞
の優秀賞を受賞した「あ
きる野市議会」へ視察研
修に出かけました。

あきる野市議会・広報
広聴委員会では「行政用
語を通じる言葉に・知ら
せたいことと知りたいこ
との差・読んでほしい量
と読める量の差」という
三点を見直しのポイント
にして、リニューアルに

取り組み、現在の議会だ
より「ギカイの時間」発
行に至りました。読みや
すさ、余白を活かしたレ
イアウト、全体の統一感
等々、参考にしたい多く
の示唆をいただきました。
その後委員会では議論を
重ね、まずアンケートを
やってみよう！というこ
とになり、「手にとって
見たい議会だよりはど
れ？」のシール投票を9
月に実施しました。話題
になってるペッパーク
んの協力もいただき、市
役所玄関ロビーと交流セ
ンターこもろプラザ入口
の二か所で行い、502票の
投票をいただきました。
ご協力いただきました皆
様に感謝申しあげます。



議会だよりアンケート



会議の様子

現在は結果についての検
証を行い、今後活かす
ための協議をしています。

広報委員会の仕事は、
議会だよりの編集のほか、
議会のテレビ中継に関す
ること、広報こもろテレ
ビ版議会だより、議会へ
の傍聴促進、出前講座、
その他情報提供に関する
こと等々、多岐に渡るた
め、一つひとつ検証し、
市民の皆様にとって議会
の見える化を更に図って
参ります。皆様からのご
意見・ご要望を反映し、
市民福祉の向上をめざす
ことこそが議会活動です
ので、どうか皆様の声を
お寄せください。お待ち
しております。

9月16日
まち再生
特別委員会
報告

理事者と意見交換

昨年12月に前市長に提出した「コンパクトシティ構想による中心市街地の活性化に向けた提言書」の第10次基本計画への反映について、市長、副市長、教育長はじめ担当部長等と意見交換を行いました。

その中では、提言書の10項目について、それぞれ担当部長より事業の進捗状況や今後の取り組みについて説明を受けるとともに、委員からも質問や、提言の補足説明などを行いました。

提言内容の反映は第10次基本計画(案)の審議で

具体的な10項目の提言内容については、第10次基本計画(案)が本年12月定例会に上程される予定であることから、それがどのように反映された

のかを含めて、議案の審議を行うこととしました。

委員会は解散

委員会の今後の在り方について協議をしました。にぎわいづくり部会で行ってきた市街地活性化については、提言書の提出をもって一定の役割を果たすことができたため、今後はその具現化に向けて第10次基本計画の策定とその進捗について、それぞれの常任委員会等で協議していくこととしました。

公共交通部会については、部会の意見が反映され、10月からの本運行では公共交通システムが大幅に見直されることから、今後は駐車場問題も含め、経済建設委員会で協議していくこととしました。小諸厚生病院の再構築についても、協定書にある実務者による組織が設置され、議会からも懇談会に参加していることから、今後は福祉環境委員会において協議を行っていきます。



以上のことから当委員会の目的は概ね達成したと考え、9月定例会をもって解散することとしました。

提言書作成に際しての様々な団体や市民の皆様との意見交換会では、多様なご意見をいただきました。当委員会では、それらを真摯に受け止め、調査、研究、討議を繰り返して提言書としてまとめました。ご協力ありがとうございました。

傍聴席



天池区
えびさわ 信之 さん

市議会を傍聴して思う。天池区内千m林道沿い山側に、大きな太陽光発電所ができようとしている。以前宅地造成が成された跡地ですが、現在は高山植物なども自生する自然

林。千m林道沿いは環濶間小諸の自然環境上の大切な宝です。地元の人々には当たり前すぎ、そんな宝物に気付いていないのかも知れません。この地の緑と大気に惹かれて移住してきた方が大勢います。そんな環境を壊して欲しくない。何らかの規制を求めている折、市議がこの話を議会で取り上げてくださるとのこと。一抹の期待で9月8日の市議会初傍聴となりました。感想は、率直に言えば期待外れ、議員先生は多くの問題を抱えて、質問は多岐に渡ります。その中の一つとして制限時間の中に埋没、市長の答弁も当たり障りのない通り一遍の建前論。貴重な資源を守る気概を示して欲しかった。小諸は坂の町、近年の局地的大雨は他人事ではありません。3千700坪の太陽光パネルの雨水は松井川もしくは中沢川へ。下流域で溢水被害が起きても、それは自然災害で、人災の可能性が指摘されることはないでしょう。

編集後記

久しぶりに市長・副市長・教育長がそろった定例議会になりました。9月定例議会は、昨年度予算が有効に使われたかを検証する決算議会で、様々な視点から質疑が展開されました。議会広報委員会では、そのような議会の様子をわかりやすく市民の皆さんに伝える広報誌づくりに取り組んでおります。手に取って読んでみたくなるよ

(剛)

